

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-64C	15-089	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Adult lifetime alcohol consumption and invasive epithelial ovarian cancer risk in a population-based case-control study. 生涯飲酒量と浸潤性上皮性卵巣がんリスクに関する症例対照研究		
執筆者		
Cook LS, Leung AC, Swenerton K, Gallagher RP, Magliocco A, Steed H, Koebel M, Nation J, Eshragh S, Brooks-Wilson A, Le ND.		
掲載誌		
Gynecol Oncol. 2016 Feb;140(2):277-84. doi: 10.1016/j.ygyno.2015.12.005.		
キーワード		PMID
飲酒、卵巣がん、症例対照研究		26691218
要 旨		
目的：		
<p>飲酒と卵巣がんには短期的には関連がないとするメタアナリシスの報告がある。しかし、成人の生涯におけるリスクおよびに酒類との関連を調査した研究は少なく、本研究では成人期における酒類・飲酒量と卵巣がんのリスクを検討した。</p>		
方法：		
<p>カナダの地域住民における浸潤性上皮性卵巣がん患者 1,144 名と対照者 2,513 名 (2001-2012 年) を対象に 20 歳からの飲酒量を調査して、症例対照研究を行った。年平均 12 杯未満を非飲酒者と定義した。ロジスティック回帰により調整オッズ比 OR、95%信頼区間 (95%CI) を求めた。</p>		
結果：		
<p>非飲酒者に比べて、ワイン飲酒者はリスクの減少が見られた (OR 0.67、95%CI 0.50-0.88) が、ビール (OR 1.06、95%CI 0.71-1.58) とスピリッツ (OR 0.98、95%CI 0.69-1.39) では関連が見られなかった。ワイン飲酒者のほとんどが赤・白両方のワインを飲んでしたが、白ワイン (OR 0.79 95%CI 0.46-1.34) より赤ワイン (OR 0.44 95%CI 0.19-0.92) の方が減少効果が大きかった。どちらのワインでも累積飲酒量が増加するにつれリスクが減少し ($p < 0.05$)、組織型では漿液性がんが明らかであった。50 歳までにワインを飲み始めた群はリスクの低下が見られたが (40-49 歳 OR 0.58 95%CI 0.42-0.78)、50 歳を超えてから飲み始めた群では認めなかった。どの酒類、量、飲酒開始年齢でも、飲酒によるリスクの増加は認めなかった。</p>		
結論：		
<p>ワイン飲酒者、特に赤ワイン飲酒者で卵巣がんのリスクが低かった。本研究は飲酒が、上皮性卵巣がんのリスクではないことを支持する。</p>		

